



ルーム **中京みぎわ保育ルーム**
〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川
上る少将井町245-1
藤和シテスクエア烏丸丸太町101
TEL.075-746-5015

中京 **中京みぎわ・分園ななほし**
〒604-8861 京都市中京区
壬生神明町1-13／壬生神明町1-382
TEL.075-432-8534

朱雀 **朱雀みぎわ学童保育所**
〒604-8871 京都市中京区壬生朱雀町8-2
TEL.080-7054-4358

みぎわ **みぎわ保育園・みぎわ児童館**
〒612-8006
京都市伏見区桃山町大島38-110
TEL.075-621-5211／090-6328-6444

清水 **清水みぎわ保育園**
〒612-8321 京都市伏見区越前町609
TEL.075-602-7375

吉秀 **吉秀みぎわ保育園**
〒614-8133 京都府八幡市下奈良新下6-3
TEL.075-971-3331

炭山 **炭山みぎわビレッジ**
〒601-1395
京都府宇治市炭山土井谷9-1.10.11
TEL.075-432-8534

京田辺 **京田辺みぎわ園(仮称)**
〒610-0311 京田辺市草内法福寺1-1
【2027年4月開園予定】

あそびでかがやけ

みぎわっこ

法人
パンフレット





時代に合わせた 質の高い保育を



社会福祉法人 美樹和(みぎわ)会は、1977年、京都伏見の地に誕生しました。
1978年のみぎわ保育園開園以来、認可保育所、認定こども園、小規模保育事業所、
企業主導型保育事業所、児童館、学童保育所をオープンし、現在約750名の子ども
たちの成長を支えています。
法人誕生から約半世紀。社会は大きく変わり、子育て支援ニーズも多様化してきて
いるなか、時代に合った保育、子育て支援を行うべく、みぎわは次のような取り組みを
行っています。

心理士・リハビリ職と保育士との
連携を通じ保育の質を向上させる
ユニバーサルデザイン保育

▶ P.3 P.4

自然体験を通じて
子どもの育ちを支える
炭山みぎわりゾート



▶ P.5

子どもの主体性を引き出すための
buffet形式の給食



▶ P.6

給食をお惣菜として販売
みぎわDELI



▶ P.7

学童クラブで子どもたちによる
自治を実現する
こども共和国



▶ P.8

みぎわの 保育理念



子どもはみんな 一番星

子どもはみんな、キラキラと輝く
可能性を持っています。
一人ひとりの子どもたちの「星」を見出すこと。
その「星」の輝きが子どもの未来を
明るく照らすよう、個性や強みを
伸ばしていくこと。
みぎわはそんな保育を行っています。

遊びひとすじ みぎわっこ

子どもがめいっぱい遊び、
毎日心から「あー、楽しかった!」という
気持ちで帰途につけるような園であること。
子どもの「知りたい! やってみたい!」という
意欲を大切に、毎日あたらしい経験を
できるような工夫を凝らす
『遊びひとすじ』の保育園をめざします。



みぎわの保育



乳児保育

乳児期(0～2歳児)は、大人が一人ひとりの子どもに
しっかりと向き合い、**食事や排泄、衣服の着脱など、**
日々の生活場面において愛着関係を築いていく「育児
担当制保育」を行っています。「自分は愛されている、
必要とされている」と実感することで、自己肯定感や他
者を信頼する力がはぐくまれていきます。



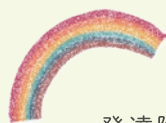
幼児保育

幼児期(3～5歳児)は、乳児期に培った「人とかわ
る力」をさらに伸ばすため、同年齢どうしでの活動に加
え、3～5歳児の子どもがともに過ごす「異年齢保育」を
取り入れています。
大人主導の保育ではなく、**子どもの自発的な欲求、自主
性を最大限尊重し、子ども主体の保育を行っています。**



みぎわの 発達支援

問題を探すのではなく、
強みを伸ばす◎



発達障害あるいはグレーゾーンにあるといわれる子どもに対する支援は、保育・教育現場における喫緊の課題です。成長が著しい0歳から5歳の時期、子どもが持って生まれた力を大きく伸ばすためには、個々の特性を理解し、適切な配慮をもって関わる必要があります。



特に、その子の「いいところ、強み」に着目し、そこを伸ばしていくことが何より重要です。そのような環境を保障すべく、社会福祉法人 美樹和会では、臨床心理士・公認心理師（心理職）4名と作業療法士1名が正職員として、言語聴覚士1名が外部専門家として支援活動に携わり、アセスメントや個別の支援計画作成、個別の療育的かわりなど、それぞれの子どもに必要なサポートを提供します。



法人に心理職・リハビリ職が常駐する保育園は非常に珍しいですが、実はこうした他分野の専門の人材と保育士とが協力することで、保育の質が飛躍的に向上するのです。

保護者の方からのご希望に応じ、発達のご相談を受けたり、お子様の発達検査を行うこともできます。

ユニバーサル デザイン保育

すべての子どもに成長の機会を

みぎわでは、どんな発達段階の子どもも楽しんで活動に参加できるよう「ユニバーサルデザイン保育」を展開しています。「ユニバーサルデザイン保育」とは、支援が必要な特定の子どもへの個別対応（合理的配慮）ではなく、すべての子どもが「わかる・できる・たのしい」を感じられる保育のことをいい、保育士と心理士、作業療法士が課題のある環境の見直しを行っています。

子どもたちが活動に入れない時

そこには
こんな
理由が...

何をしたらいいか
分からない

このあそび
面白くなさそう

ケガをしたら
どうしよう...



理解不足



興味不足



安心不足

この3つの不足を補う
7つのツールを
うまく保育に活用！

1 | 視覚化

2 | 選択制

3 | 物語化

4 | 役割付与

5 | 簡素化

6 | 習慣化

7 | シグナル化

実践例



クッキング体験の設定保育では、活動内容を子どもも用ホワイトボードに掲示しました。やる作業ごとに写真を提示し、子どもは自分の顔写真マグネットをやりたい場所に貼ります。これにより、言葉だけではイメージしにくい子どもも視覚的に理解でき、さらに誰がどの作業を選んだのかが一目で分かります。年長児になると自由参加のアルバイト活動も始まります。やりたいアルバイトをみつけた子どもが自分の顔写真マグネットを貼る姿をよく見かけます。



読み聞かせで使用した絵本のストーリーをそのまま取り入れ、子どもたちが興味をもって参加できるよう工夫します。複数日にわたる異なる設定保育をひとつの物語として提示し、「みんなで協力して笹と短冊を見つけよう！」「ほしのかけらを集めよう！」「雨雲を吹き飛ばそう！」などの展開を通して、子どもたちは楽しみながら取り組むことができます。その中で、保育のねらいとする発達課題にも自然に挑戦していけるようになります。

自然保育

～五感を刺激する自然体験を～

炭山みぎわリゾート

炭山は、京都府宇治市にある山あいの静かな里。この地に子どもが定期的に訪れる炭山みぎわリゾートがあります。子どもたちは野原を駆け回って遊んだり、草に寝転がって空にうかぶ雲をながめたり、バツヤやカマキリを追いかけたり、隣を流れる川でサワガニを見つけたりと、自然遊びを心ゆくまで楽しむことができます。

あらゆる活動や宿泊ができる「山の家(炭山みぎわビレッジ)」

2023年7月に完成した炭山みぎわビレッジでは、子どもたちが室内で創作活動を行うほか、宿泊もできる施設としてオープンしました。お泊まり保育の際には、子どもたちが菜園で育てた野菜を収穫して、炊事場で夕食を作り、川沿いでキャンプファイアーをしてから、虫の声や川のせせらぎとともに眠りにつきます。

普段通う園舎や園庭という環境に加えて、子どもたちのもうひとつの育ちの場所となる炭山は、園児にとって思い出深い場所となっていくでしょう。



宿泊・日帰り自然体験施設としても利用可能

みぎわの保護者の皆様、そしてマイ保育園にご登録の方に宿泊施設、日帰り自然体験施設としてご利用いただけます(無料)。



園外活動地をまとめた「冒険の書」

みぎわは、この炭山みぎわビレッジ以外の場所にもよく出かけます。その園外活動地をまとめ、「冒険の書」として紹介しています。ご家族の週末のおでかけ候補が見つかるかも！



check!



子どもの主体性をはぐくむ

ビュッフェ形式

給食

なぜビュッフェ形式？

3～5歳児には、ビュッフェ形式で給食を提供しています。給食をビュッフェ形式にすることで、好きな時間に、好きなお友達と、好きな場所で、好きな分量の給食を食べることができ、子どもたちが自分の考えや想いを行動に移すことができる機会となっています。

アレルギー児は、他児とお盆の色を分け、おかずを取る際に保育士がついて声をかけ、誤食が起こらないよう対応しています。

また、自分の苦手なおかずも、好きなお友達が食べている姿をみて「少し食べてみよう!」という意欲がわき、栄養バランスのよい食事が摂れています。

時間も過ごし方も自分で決める

好きな時間に給食を食べられることによって、午前中の活動に時間的な制限をかけることがなくなり、満足いくまで遊び込み、納得したうえで次の活動(給食)に移ることができるようになります。

さらに、給食を食べ終わったあと、午睡が始まるまでの過ごし方も自由です。保育室で絵本を読むのもよし、園庭で走り回ってもよし。こうした日々のなかで選択できる環境、選択する機会を積み重ねることこそが、子どもたちの主体性をはぐくんでいくのです。



小学校の長期休暇に



学童クラブでも給食を提供

また、みぎわの学童クラブでは小学校の長期休暇期間中に希望者の方全員に対し給食(1食300円)を提供しています。子どもたちに大人気のメニューを厳選し、栄養価にも配慮したうえでみぎわの管理栄養士が献立を作成しています。保育園と同じく、学童クラブでもビュッフェ形式を導入し、学童たちが食べたいものを食べたい分量、食べたい時間などを自ら選べるようにしています。



みぎわ DELI

保育園のなかの
お惣菜屋さん



中京みぎわ園とみぎわ保育園の園舎内には「みぎわDELI」というお惣菜屋さんがあります。みぎわの給食のなかでも園児に特に人気のメニューを週に1回、ご家庭での夕食用に販売しており、お迎えの時間にお買い求めいただくことができます。

さらに、普段ビュッフェを調理するにあたって多めに発注している食材を使い、その日のビュッフェメニューを調理し、「ぷちDELI」として販売しています。主菜はおとな1人分200円、子ども1人分100円。和え物はおとな1人分100円、子ども1人分50円で(食材の原価相当)、家計にやさしい価格にしています。

れいとうDELI



▲真空パックした商品を急速冷凍機で冷凍



みぎわの給食をいつでもご家庭で

いつでもご家庭でみぎわの給食を楽しんでいただけるよう、7種類のメニューを冷凍食品として販売しています。

急速冷凍機で冷凍することにより、食味を損なわず、給食のおいしさをそのままご家庭にお届けすることができます。

いままで中京みぎわ園とみぎわ保育園のみで開店していたみぎわDELIですが、冷凍食品にして各施設に運搬することで、全施設の保護者のみなさまに給食をお楽しみいただけるようになりました。

「いつも冷凍庫に給食があったら安心だな」という保護者さんのお声から始まった「れいとうDELI」。これからも食を通じて、子ども、保護者のみなさまを支えていきます。



みぎわDELIの
メニューは
こちらから！



こども 共和国

子ども自身による
自治を目指す



伏見区にある「みぎわ児童館」、中京区にある「朱雀みぎわ学童保育所」。この2つの施設では、「こども共和国」という取り組みを行っています。

こども共和国とは、家庭でもない、小学校でもない、学童という貴重なこの場所で、大人がつくったルールではなく自分たちでつくったルールで、自分たちの居場所にしていこうという取り組みのことで、子どもによる自治を目指すもの。子どもたちは学童で過ごす際のルールをみんなで話し合ったり、おやつを自ら決め調達したり、行事を企画したりと、自分たちの力とアイデアで学童を運営しています。

また、さまざまな活動を仲間と楽しむためのクラブも、子どもたちの手によって立ち上がっています。



子ども自身で
作成した
ルール

ときにはお互いの意見の相違も経験しながら、そうした対立を対話で乗り越えていく。そして、自分たちがほんとうに納得できるルールや環境を自らの手でつくりあげていく。そうした経験を通じて、先生に言われたから何かをやる/やらないというのではなく、自分はこれをやるべきだと思うからやる、これはやるべきでないと思えるからやらないと判断できる力(自律心)が養われていきます。



日々の活動は
子どもたちが
決める

共和国は子どもたち自身がクラブを立ち上げて、好きな活動をするというだけではありません。自分たちの場所を自分たちで過ごしやすくしていくためには、子ども同士での話し合いやルールづくりが欠かせません。



行事を
みんなで
計画して実現



おやつも
子どもの
手作り

ほかにもこんな
クラブを立ち上げて
います♪



保護者支援

今しかない子育ての時間を 楽しめるように

「保護者の方々が、子育ての時期をすこしでも余裕をもって楽しみ、充実した親子関係を築けるように全力でサポートする」。これがみぎわの保護者支援の方針です。そのために、時間的、精神的、金銭的なご負担をなるべくおかけしないよう、ご家庭での時間がより充実するよう、法人として努力しています。

Point 1



毎日の持ち物は着替えのみです

毎日使用するビニール袋や手拭きタオル、おしりふき、エプロン、飲み物など、着替え以外の必要なものはすべて園で用意します。

乳児で使用する哺乳瓶や粉ミルクも全て園で用意しています。

お迎えの時間が遅れても 遅延金はいただきません

契約時間を超えても、無料で保育を継続できます。お仕事の都合などでお迎えが遅れることもあるでしょう。その際は、アプリからご連絡をいただだけで結構です。

Point 2



保護者会はありません

「園のためにではなく、子どものために時間を使えるように」。保護者さんに時間面でのご負担をおかけしないよう、保護者会は設けておりません。

他方で、親子遠足や保育参観など、保護者のみなさまが交流し、意見交換できる機会を設けています。

Point 3



お弁当の日はありません

みぎわはよく園外へ遊びにでかけます。その際のお弁当や飲み物も、給食室が準備します。

また、土曜日でも平日同様、給食を提供していますのでお弁当持参の日はありません。

Point 4



Point 5



オムツやシーツの持ち帰りはありません

0・1歳児のオムツは、月2,500円でサブスクをご利用いただけます（希望者のみ）。使用済みのオムツは園で廃棄しています。

敷布団は園で管理し、お昼寝シーツは園で洗濯・乾燥を行いますので、ご家庭にお持ち帰りいただく必要はありません。

お仕事がない日でも 園をご利用いただけます

お仕事がない日に園をご利用いただけないとなると、保護者の方がリラックスし、一息つく時間が制限されてしまいます。余裕あってこその子育てですので、必要なときはいつでも園をご利用ください。

年末年始以外の特別な休園日はありません。

Point 6



Point 7



保護者負担金を最低限に抑えます

「園のためにではなく、子どものためにお金を使えるように」。この方針のもと、保護者の方に不要な金銭負担が生じないように努力しています。

給食費は5,000円（国基準は7,500円）とし、原価相当におさえています。

